

7章 川口町の被害状況

震度7を観測した川口町の水道は、図7.1に示すように5箇所の簡易水道と2箇所の小規模水道施設で構成されている。これらの水道施設の構造物の被害状況は、既報告書に記載したとおりであるが、管路の被害状況の詳細について当時は未集計であった。本報告書では、今回の現地調査までに把握できたデータ等を紹介する。最も規模が大きい中央簡易水道の管路被害の状況を表7.1に、被害の発生地点を図7.2に示す。

ダクタイル鉄管の被害は、すべて離脱防止機構のない継手部の抜けであった。硬質塩化ビニル管の被害は、管体や継手部の破損及び継手部の抜けであった。

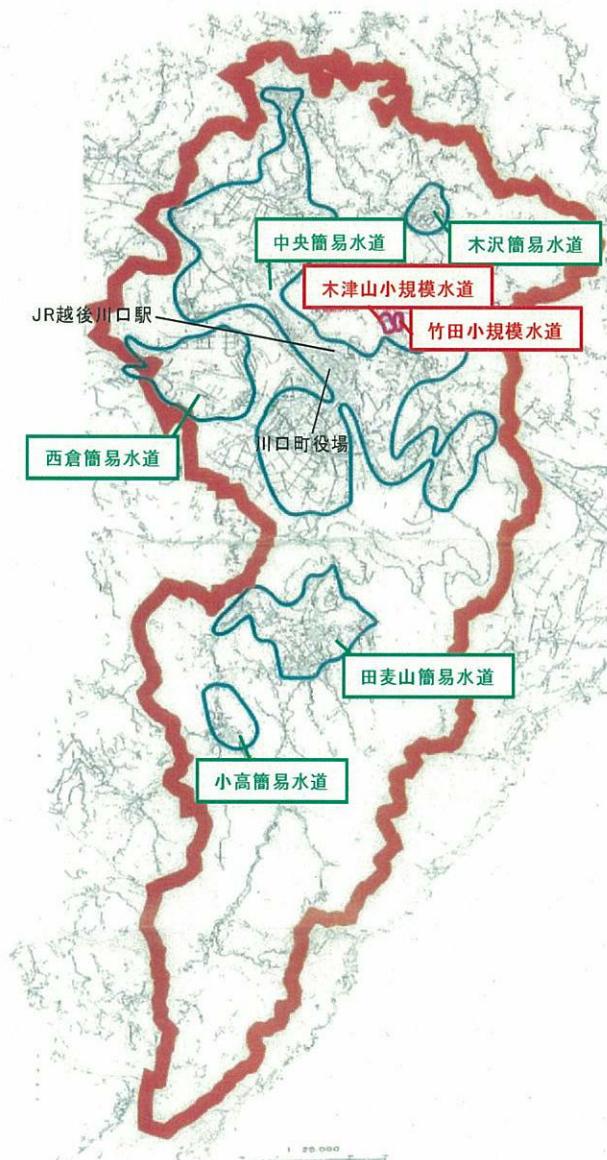


図7.1 川口町の水道

表7.1 中央簡易水道の管路被害

	DIP	VP	SGP	PE	その他	弁類	計
被害 件数	φ50以下		28		3		31
	φ75		13				13
	φ100	4	10	4			18
	φ150	1					1
	φ200	1					1
	φ250	3					3
	弁類						2
計	9	51	4	3	0	2	69
管路延長(km) ^{*1}	14.75	31.27	0.402	6.527 ^{*2}	—	—	52.948
被害率(件/km)	0.610	1.631	9.950	—	—	—	1.303

*1 出典:平成15年度全国簡易水道統計、全国簡易水道協議会

*2 「その他」の管路延長はポリエチレン管(PE)や石綿セメント管を含む

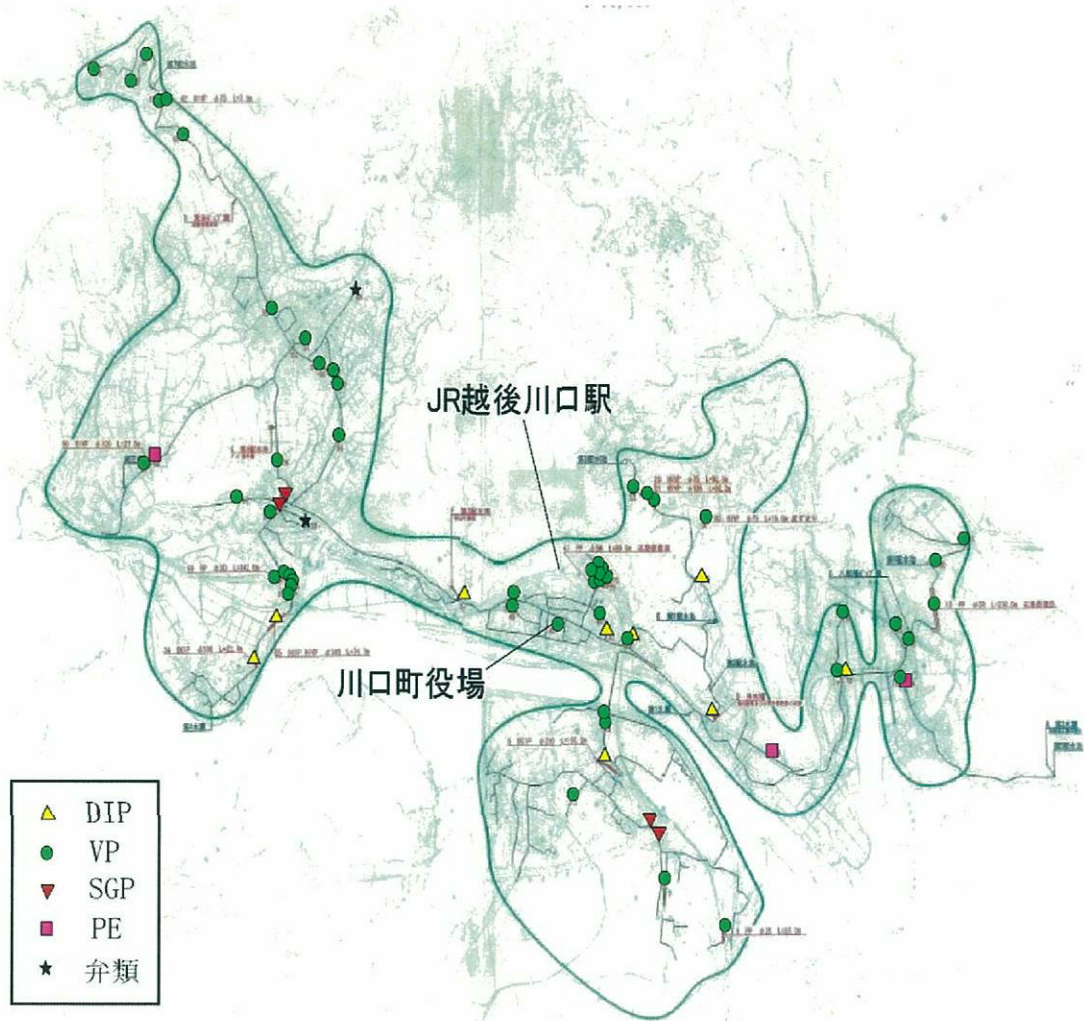


図7.2 中央簡易水道の管路被害発生地点